



空き家利活用コンテスト2022 優秀賞



非住宅部門

事例 06

いなば西郷工芸の郷 ギャラリー&カフェ okudan

作家も来訪客も喜ぶ工芸の拠点  
山里のギャラリー&カフェ



工芸作家の作品が並ぶギャラリースペース。既存の天井を撤去し勾配天井を新設、あえて松の梁を見せるようにした。作品が映えるよう壁と展示台は白色に統一、梁と平行にダクトレールを設置してフレキシブルにライティング。山里の静けさも手伝って、作品の世界観に没頭できる。

鳥取市河原町西郷地区は、陶芸・木工・ガラス工芸など様々な分野の工芸作家が集う「いなば西郷工芸の郷」として知られている。その活動をサポートしているのが、受賞者である「一般社団法人西郷工芸の郷あまんじゃく」だ。工芸祭りやワークショップといったイベント開催等に取り組んでおり、その甲斐あって全国各地から工芸好きが訪れるように。しかし各工房は個人運営であり、突然の来訪客に対応できないことが多い。「気軽に作品を見てもらえる場所があれば」との思いから、拠点づくりのプロジェクトが始動した。

かつて老夫婦が暮らしていた住宅の、落ち着いた佇まいを生かして改修。玄関の右側にあった和室3部屋は、柱や鴨居は残しつつ襖や障子を外して、広々としたカフェスペースに仕上げた。玄関左側の洋室は工芸品のギャラリーだ。白を基調としたスッキリとした内装により、まるで美術館のような雰囲気に。ゆっくりと工芸品を見ることができる。

この拠点ができたことにより、これまで西郷地区や工芸品とは全く縁のなかった人や若者とのつながりが生まれており、新たな来訪者が少しずつ増えているという。





洗面所とトイレは、来訪者が心地良く使えるよう修繕。2台の洗面ボウルは西郷の工芸作家がこの場所のために作った特注品だ。至るところに“工芸の郷らしさ”を盛り込んでいる。



玄関の床は全て杉板に張り替えているが、天井は既存のまま。和建築の魅力が光る。靴を脱ぎ履きするときのベンチ、体を支える手すりなど、来訪者をさりげなく助ける気遣いがある。





(写真上・左下) 窓からの眺めに癒されるカフェスペース。気に入った作家の食器でコーヒーやハーブティーを楽しむこともできる。  
 (写真右下) カフェの奥にある調理場。カウンター付きでメニューの受け渡しがしやすい。



[ DATA ]

- 【所在地】鳥取市河原町弓河内84-2
- 【構造】木造2階建て 【築年月】昭和37～38年
- 【改修後の用途】ギャラリー&カフェ
- 【間取り構成】ギャラリースペース、カフェスペース(客席・カウンター・キッチン)、スタッフルーム、トイレ、2F(未使用)
- 【改修期間】2021年9月～2021年11月
- 【改修費用】約460万円